卒直なる態度の表明を要求し、併せて断乎東京各区青年団の出動を阻止せられんことを要求す。

右決議す。

昭和九年九月七日

社會大衆党

別記(二)

スト情報 第六報

九月七日午後七時

争議本部書記局

俺達の市電ゼネストに対する全国の無産團体は一斉に奮起した。今日迄非常時の重圧下に気息奄々たる全無産階級運動は東交のゼネストの烽火に眠れる獅子が始めて呼起されたのだ。市電ゼネストこそ正に非常時を吹飛ばし、労働者の偉力を示したのだ。今や応援激励の電報檄文は本部に山積され応援金は大阪自助会の一千圓を始め續々と集まり大阪市電自助会は更に日給一日分以上の醵金を初めた。交網関係だけでも応援金は一萬圓を突破するであらう。

吾々の一ヶ月持久戦計画に驚ろいた電気局は、狼狽して対策を樹てたと言って居るが而し乍ら一ヶ月の持久戦では電車も自動車も故障車續出で恐らく動く車は激減しスキャップが居ても運転する車がなくなりスキャップの運転や不能に陥り名実共に街頭より車影を没するであらう。

電燈課に於ては既に事故続出にも不拘スキャップには修理が出来ず狼狽を極めて居る。 備てず騒がず執拗に根強く大東交一萬二千の争議團の偉力を以て進まばスキャップが如何に居らうと局長が如何にジタバタしても俺達の勝は疑なしだ。 単独行動は絶対に取るな！

首脳部の指令によって堂々と行動せよ！

その後の情報左の如し。

市会無産團体応援團會議は毎日対策協議を開き着々斗争を進めてゐるが演説会は左の如く決定した。

八日 本所公会堂。 九日 傳通院会館。 十日 本郷佛教会館。